

世界遺産登録 20 周年記念

Born from NIKKO!

— 自然といのりから生まれた名品たち

現在、国内外から多くの人々が訪れる観光地・日光。山岳信仰の拠点として、徳川家の霊廟として信仰を集める「いのり」の地であった日光は、多くの参拝客で賑わったものの、明治期に神仏分離を命じられたことにより、衰退の危機に瀕します。そのような中、アーネスト・サトウら日光を訪れた外国人が、絢爛な社寺や豊かな自然を見出したことにより、観光地としての道を歩み始めることとなります。

また、この頃の日本では洋画が大きく発達しましたが、日光においても、旅の果てにこの地に定住した五百城文哉（1863-1906）や、その弟子の小杉放菴（1881-1964）が中心となり、独自に発展を遂げました。特に、外国人観光客に向けて制作された社寺を描いた「おみやげ絵」からは、黎明期の洋画と日光の「観光地」としての始まりの様子をうかがい知ることができます。

もう一つ、日光の美術を知る上で欠かせないのが、「国立公園絵画」です。1934（昭和9）年、日光は国立公園の指定を受けますが、そもそも、この制度は、明治時代に当時の日光町が帝国議会に請願をしたことがきっかけに定められたものでした。その普及のために制作された国立公園絵画は、藤島武二や梅原龍三郎など当時を代表する画家たちが手がけ、約80年の歳月を経て、全80点が完成。近代洋画の流れを追うことのできるこの貴重なコレクションは、2012（平成24）年に当館に寄贈されました。

このように、近代の日光では多くの優れた画家や作品が生まれましたが、現代もその流れは止まることはありません。現代の洋画壇を代表する画家に、入江観（1935-）が挙げられます。日光に生まれた彼は、幼い頃から絵画に親しみますが、その背景には小学校の先輩である放菴や、小中学校の恩師が中心となって発足した絵画グループ・青光会といった、豊かな環境がこの地にあったためと言えるでしょう。

世界遺産登録から20年を迎えた今、近代から現代に至る「自然」と「いのり」から生まれた絵画の名品をご紹介します。

■ 展覧会概要

会期 2020年1月1日（水・祝）～2月16日（日）

休館日 毎週月曜日（祝日のときは開館し、その翌日を休館）、年始休館 1月6日（月）～8日（水）

開館時間 9時30分～17時（入館は16時30分まで）

会場 小杉放菴記念日光美術館 展示室

主催 公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館、日光市、日光市教育委員会

入館料 一般730（650）円、大学生510（460）円、高校生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体割引料金 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料 ※第3日曜日「家庭の日」（1月19日、2月16日）は、大学生は無料 ※元日は入館無料

■ 展覧会構成 ※作品はすべて当館蔵

I. 観光地のはじまり 一名所絵からおみやげ絵へ

もともと山岳信仰の拠点として、さらに徳川家の霊廟として信仰を集めた「いのり」の地であった日光。明治時代には神仏分離令によって衰退の危機に瀕しますが、日光を訪れた外国人によってその魅力が見出され、観光地としての歴史を歩み始めることとなります。この頃制作された、色鮮やかな「名所絵」は、当時の賑わいを伝えています。またこの頃の日本では、洋画が発達したことにより、写実的な風景画が制作されるようになりますが、日光においても、「おみやげ絵」が独自に発展します。神橋や東照宮を描いた写実的な風景画を、外国人たちは「おみやげ」としてこぞって買い求めたのでした。

本章では、名所絵とおみやげ絵のほか、小杉放菴が手がけた観光地図などもならべ、日光の観光地としてののはじまりと洋画の黎明期の動きを追います。



画像1 長谷川竹葉《新鑄日光十二景之内 神橋》1881（明治14）年



画像2 小杉未醒《神橋》1900年代

II. 国立公園はじまりの地・日光 一巨匠たちが描いた風景画

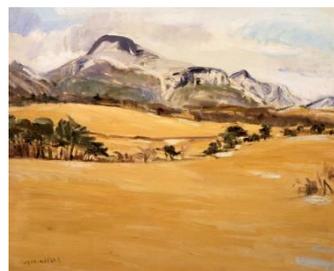
中禅寺湖や戦場ヶ原など、豊かな自然を擁する日光は、明治期より格好の写生の場として知られ、多くの画家たちが訪れました。その後、1934（昭和9）年に国立公園に指定されますが、そもそもこの国立公園の制度は、明治時代に当時の日光町が「日光ヲ大日本帝國公園ト為ス請願」を帝国議会に提出したことに端を発しています。

このように、国立公園のはじまりの地・日光に位置する当館は、2012年に国立公園協会から、「国立公園絵画」の寄贈を受けました。1932（昭和7）年に制作が開始されたこのコレクションは、藤島武二や梅原龍三郎ら当時を代表する洋画家たちが手がけ、途中戦災で焼失した作品の補完や新指定の公園の制作を経て、約80年の歳月をかけ全80点が完成しました。このコレクションからは、近代日本洋画の流れはもちろん、それぞれの画家の風景に対するまなざしの違いを知ることができます。

本章では、日光を訪れた画家たちの風景画を起点に、巨匠たちが手がけた国立公園絵画をならべ、近代日本洋画の流れを辿るとともに、画家の風景観の変化も探ります。



画像3 石井柏亭《中禅寺湖畔》1908（明治41）年



画像4 中野和高《那須》1953（昭和28）年

Ⅲ. 風景に呼ばれて ーもう一人の日光生まれの画家・入江観

現代の洋画壇を代表する画家に、入江観（1935-）が挙げられます。日光に生まれた入江は、1953（昭和 28）年に東京藝術大学美術学部に入學、在學中の 1956（昭和 31）年には春陽会展に入選します。幼い頃から、小学校の先輩であった小杉放菴と、放菴が設立に関わった美術団体・春陽会の存在を強く意識していたと言います。27 歳のとき、フランス政府給費留学生として渡仏し、モーリス・ブリアンションに師事。帰国後は、春陽会会員に推挙され、女子美術大学教授を務めるなど、現在も美術界の第一線で活躍しています。

入江は制作の原点として、「風景に呼ばれて描く」ことを度々述べています。これまで茅ヶ崎の海辺の風景を描いてきた彼ですが、70 歳を過ぎた頃から日光の風景を精力的に描くようになります。

本章では、同郷の先輩・放菴の作品と、入江の小中学校の恩師が中心となって結成された日光の絵画グループ・青光会の画家たちの作品をならべ、入江の原点を探るとともに、70 歳にして日光の風景に「呼ばれた」彼がいかにして故郷を描いたのかを探ります。



画像 5 入江観《双稜冠雪》2012（平成 24）年



画像 6 入江観《湖畔晩夏》2015（平成 27）年

展覧会関連イベント

■ 担当学芸員によるギャラリートーク

1月4日（土）・18日（土）、2月1日（土）・15日（土）

各日とも 11 時～／14 時～（1 時間程度）

次回展予告

生誕 100 年 斎藤博之 絵本のしごと展

2020 年 2 月 22 日（土）～4 月 5 日（日）

本展に関するお問い合わせ先

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内 2388-3

Tel: 0288-50-1200 Fax: 0288-50-1201

HP: www.khmoan.jp

担当学芸員 清水友美

E-mail: shimizu-tomomi@khmoan.jp

世界遺産登録 20 周年記念 Born from NIKKO!
—自然といのりから生まれた名品たち
広報用画像申込書

FAX: 0288-50-1201 E-mail: shimizu-tomomi@khmoan.jp
小杉放菴記念日光美術館 清水行

■ 画像ご使用に際してのお願い

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れて、FAX かメールにてお送りください。
- ・使用目的は、本展のご紹介のみに限ります。
- ・画像は、原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行なわないよう、お願いいたします。
- ・掲載する場合は、作者名と各画像のキャプションを必ず記載してください。
- ・画像のご使用は1申込につき1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- ・基本情報確認のため、展覧会担当まで一度校正紙をお送りください。
- ・掲載見本を展覧会担当までご送付いただきますよう、お願いいたします。

✓	No.	作品
	1	長谷川竹葉《新鑄 日光十二景之内 神橋》1881（明治14）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	2	小杉未醒《神橋》1900年代、小杉放菴記念日光美術館蔵
	3	石井柏亭《中禅寺湖畔》1908（明治41）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	4	中野和高《那須》1953（昭和28）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	5	入江観《双稜冠雪》2012（平成24）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	6	入江観《湖畔晩夏》2015（平成27）年、小杉放菴記念日光美術館蔵

貴社名： _____

雑誌等名： _____

ご担当者名： _____

Tel： _____

Fax： _____

E-mail： _____